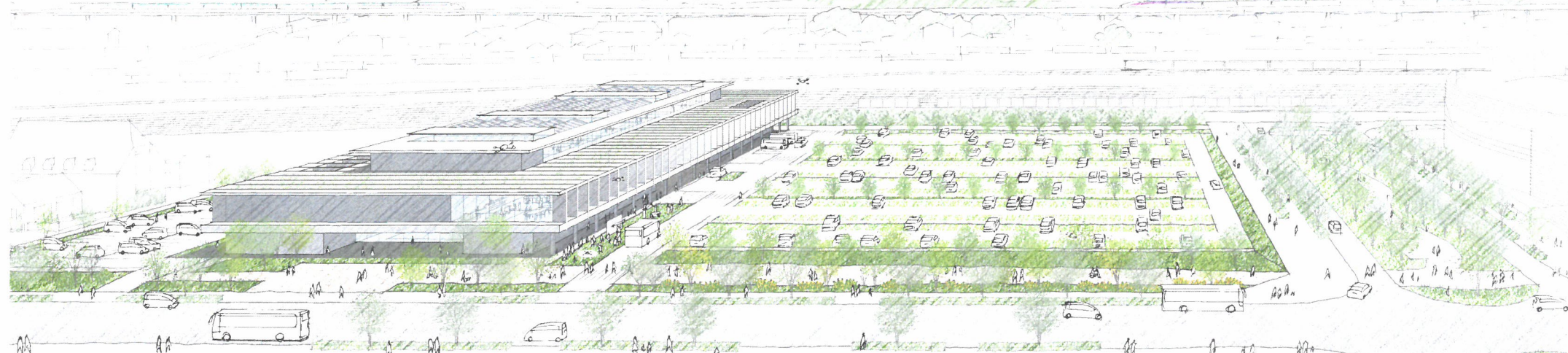


ニューノーマル時代に向けた新しい合同庁舎をカタチにします。

人々の生活様式や働き方の変化は、コロナによって加速し、ニューノーマルという時代に移行しつつあります。

また、SDGs やカーボンニュートラルなどの社会要請に応えることも重要な課題です。

この新しい時代に向けた様々なニーズに対応し、これからも福島県民を長きにわたり、ささえ続けることができる新しい合同庁舎のあり方を提案します。



一 執務室からワークプレイスへ

ABW(ウェルビーイング)の手法を取り入れた快適で健康的なオフィスとして

時代に応じた柔軟性のあるフラットなワークプレイスとして

- 開放的で部署や立場を超えたコミュニケーションが可能な執務環境
- 業務に応じて働く場所を選べる執務環境
- 光や風を感じ開放的な、職員や来庁する利用者すべてが快適で、健康的に過ごせる執務環境
- CASBEE-WO 認証の取得

- 執務室機能を業務形態に再構成したワンフロアの構成
- 利用形態に応じ階層ごとのセキュリティゾーニングを確立した構成の執務環境
- 様々なレイアウトが可能なフレキシブルで、将来の変化を許容するリタナントなワンフロアの構成

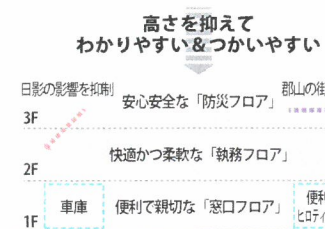
- 災害時の機能転換を踏まえた構成と業務拡張に備えた余剰の確保
- 建物、内部空間など高い安全性の確保
- 事業継続を可能にするインフラのバックアップ性能の確保
- 災害時には、災害対策拠点施設となるリバーシブルな庁舎

(1) 県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保に関する提案

機能集約による明快でシンプルな構成の庁舎

全ての執務室をワンフロアに集約した三層構成

- ワンフロアに執務空間を集約し、フレキシビリティと快適性を備えた新しい執務空間をつくります。
- 機能的な3層構成で、来庁者や職員がわかりやすく、利用しやすい庁舎を実現します。



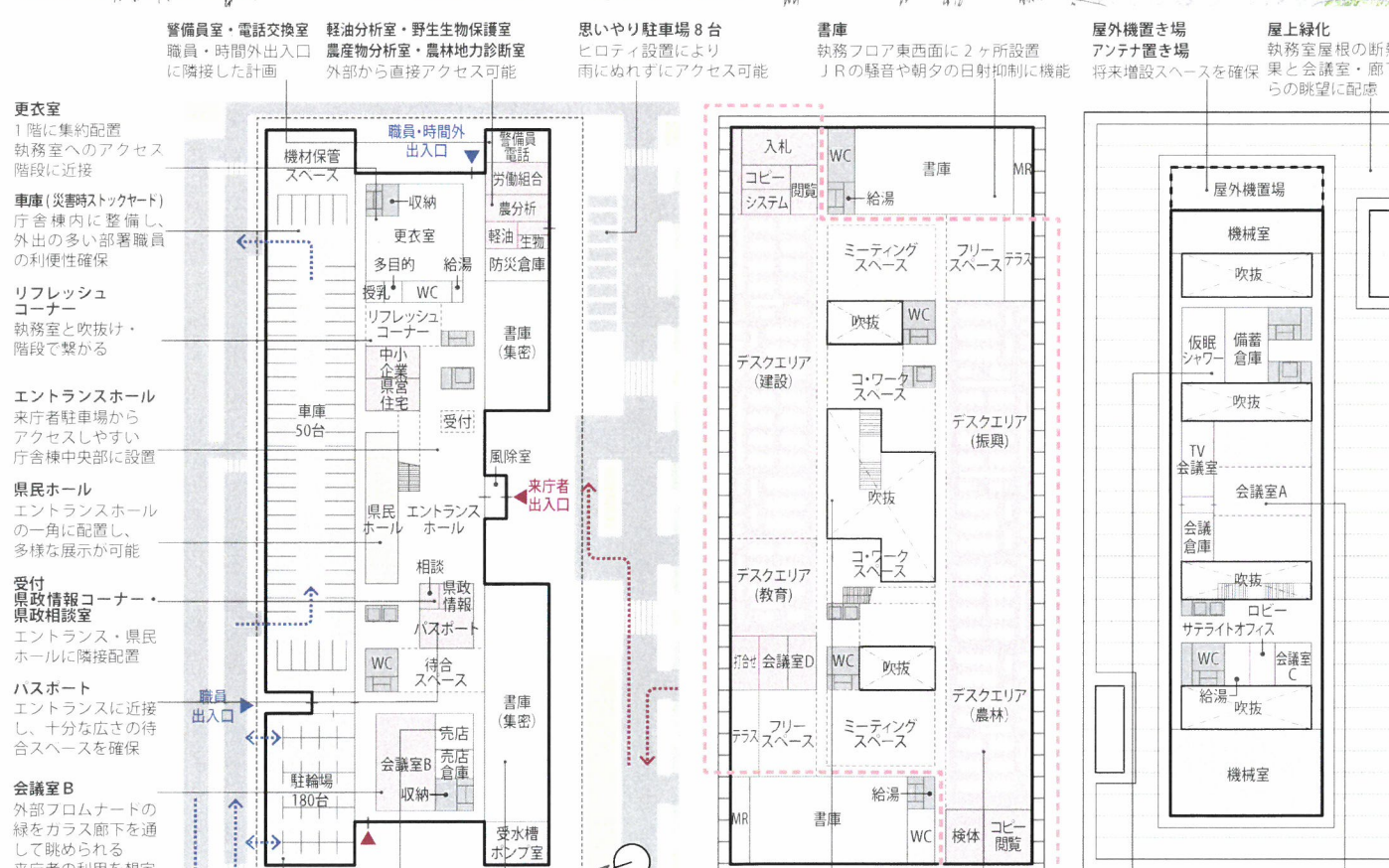
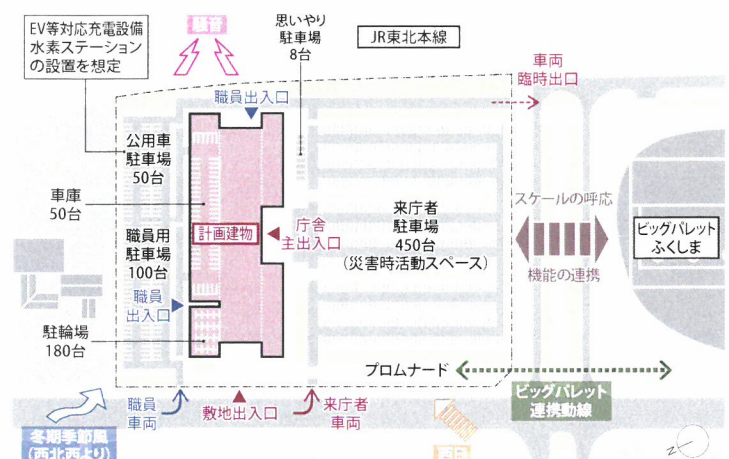
3F 街を一望できる最上階は、災害時に重要な機能をコンパクトにまとめ、迅速かつ確実な対応を実現できる県民の岩を築きます。

2F 全ての課をワンフロアに集約することで、フレキシブルかつユニバーサルな利便性の高い執務空間を生み出します。

1F 利用者が多い窓口や最新の県政情報が得られる県民ホールを配置し、使いやすい親しみ感じられる庁舎の顔となります。

周辺環境に呼応した機能的な配置を実現

- 来庁者用と職員用を明確に分離した駐車場とします。
- ビックパレットに対峙するスケール感に呼応した水平に広がる低層型建築とします。
- 日射環境負荷軽減に最も効果を発揮する東西軸配置とし、冬期の西北西からの風やJRの騒音対策に配慮します。
- 西側に、緑豊かな幅8mのプロムナードを設置し、ビッグパレットふくしまとの連携を図ります。
- 車庫、駐輪場を庁舎棟と一体化し、利便性向上を図ります。

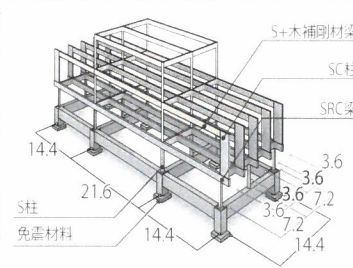


(2) 県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方に関する提案

災害時活動の拠点となるリバーシブルな庁舎

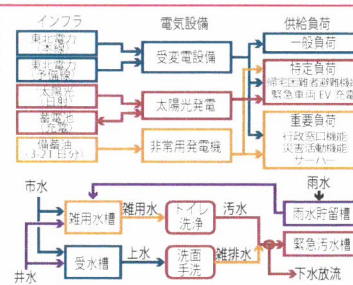
安全性とフレキシビリティを両立する合理的な免震構造

- 大スパン基礎梁で、免震材料を減らし、コスト削減を図ります。
- 水平剛性を高めた架構形式により、免震効果を高めます。
- S+W ロングスパン梁によるフレキシビリティの高い空間を実現します。



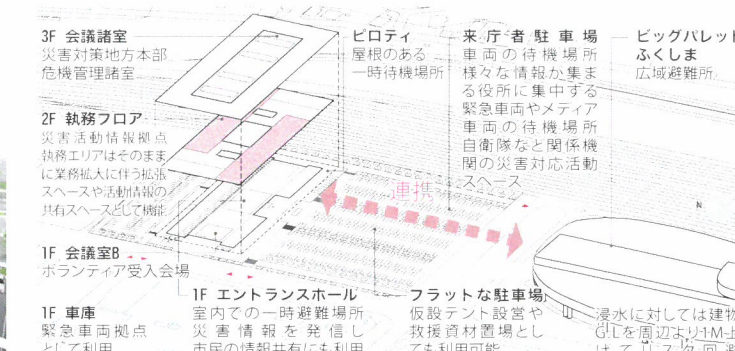
最大21日の長期活動を支えるバックアップ計画

- エネルギー供給モードの切替により、最大21日間、災害対策活動の継続を可能にします。
- 電力は2回線受電、蓄電池付太陽光パネル・発電機の多重化対応で、リスクを低減します。
- 給排水は水の備蓄の他、井水・雨水利用を併用します。



災害対策地方本部としてスムーズに機能転換が可能

- 災害活動時の3階「災害対策地方本部」に対し、1階を「情報発信・緊急車両拠点」、2階を「災害活動情報拠点」と位置づけ機能転換可能な計画とします。
- 危機管理機能諸室を他室からの独立した平面計画とすることで、人と情報の混乱を回避します。

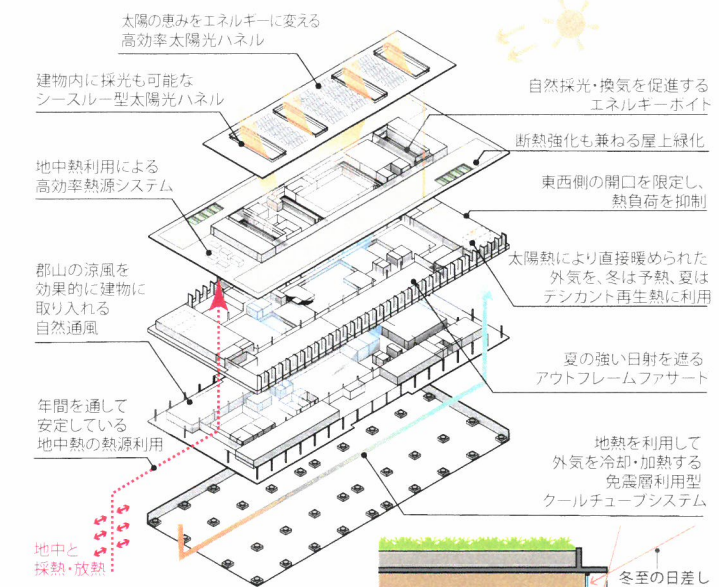


(3) 人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方に関する提案

風や光を感じる、働く人が快適な執務環境の庁舎

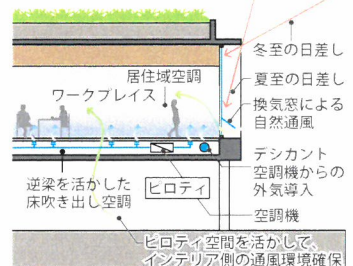
脱炭素へ向けた庁舎建築のあるべき姿を追求

- 直射光を遮り、天空光を柔らかく室内へ導きながら、郡山の涼風を効果的に取り入れる窓廻りとハイサイドライトの配置とし、快適性と省エネを両立するオフィスとします。
- ピーク電力を20%以上削減する大容量太陽光パネルによる電力エネルギー補完、年間を通じて安定した地中熱をくみ上げる地中熱空調利用など、再生可能エネルギーの積極的な導入を図ります。
- 庇と柱、ルーバーによる熱負荷の抑制と屋上緑化等の効果的な断熱手法を取り入れた建築に、適切な設備容量設計とシステムの高効率化を組み合わせ、設計時のZEB-Ready、建物運用時のNealy ZEBを目指します。



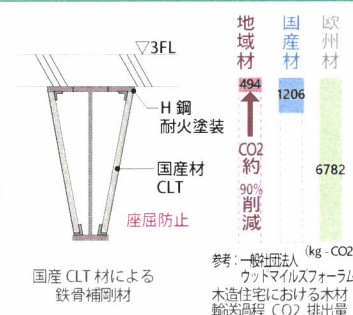
建築デザインと環境手法を融合した快適な空間

逆梁構造とし空調機を設置スパン毎に制御可能なゾーニングとし、居住域床吹き出し空調システムを実現ワークスペース床に日射制御や自然通風を取り入れることで、快適な執務環境を計画



ウッドマイレージに配慮した木材の積極的利用

- 執務室の主架構である鉄骨梁の座屈防止補剛材として国産CLT材を現しで用い、構造と意匠を両立した執務空間を生み出します。
- 地域の魅力を引出すと同時にウッドマイレージに配慮し、県産材(八溝杉や会津杉など)を積極的に利用します。

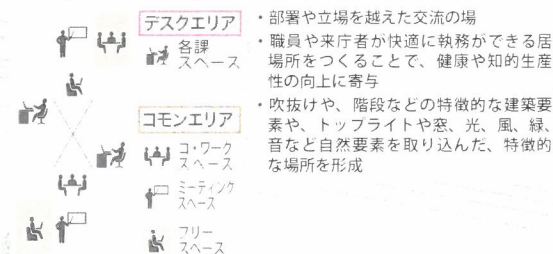


全ての人の安全安心を実現するインクルーシブな空間

- 各課間のフラットな移動を実現し、多様性を尊重、すべての人が安全・安心して利用可能な執務フロアとします。
- 明快なゾーニングと柱スパンごとの大型サインにより、だれでもわかりやすい施設とします。



多様な交流がイノベーションを生み出すコモンエリア



従来の働き方に近い環境を想定 部署単位で効率良くスペースを集約

コ・ワークスペース

打ち合わせ前の話し合いや簡単なコミュニケーションがとれる場所

ミーティングスペース

情報共有や意見交換のための打ち合わせが行われる場所

フリースペース

フリーな打ち合わせや集中したいときに一人で使える場所

書庫

各種からのアクセスに配慮して、東西面にバランスよく配置

南北方向に開いた開放的な執務空間

- 執務フロア階高は5.0mとし、S+W梁の下端で3.5m、吊り天井を中止し、梁を現しとすることで、天井高さ4.6mの空間ウォリュームを確保
- 南北方向にCLTを補剛材とした梁を3.6mヒッチで連続させて自然光を執務空間に導き、解放感・落ち着きのある空間を実現



多様なワークスタイルを許容する様々な場所



上下階を吹抜けによりつないだ一体感のあるシームレスな明るいコモンエリア

業務に応じて働く場所を選べる執務環境

- 働き方や健康オフィスの考え方である、ABW (Activity Based Working) の思想を採用
- 個人個人に合わせた様々な働き方が許容される執務環境



コモンエリア

職員同士の打ち合せ、来庁者対応や、コ・ワーキング利用など多様な働き方を受け入れる執務空間

エネルギーボイド

大空間の快適性向上のための、自然採光・換気促進

サポートゾーン

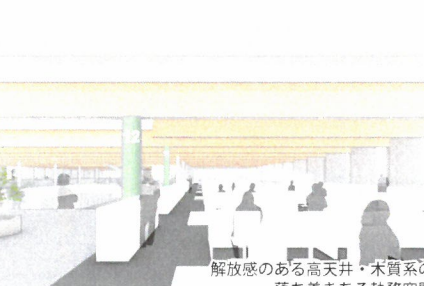
収納やキャビネット、複写機等業務支援機器を効率よく設置

個人ブース

個別参加のWEB会議等に対応

ワンフロア集約により、ニューノーマル時代のニーズに即した様々な対応が可能なワークスペース

- 在宅勤務などの将来の働き方の変化に対応できる、可変性のあるデスクエリア、コモンエリアの構成
- 文書の電子化等により縮小した書庫をワークスペースへと転換できる平面・架構形式



解放感のある高天井・木質系の落ち着いた執務空間

(4) 社会的ニーズ等の変化に柔軟に対応できる庁舎のあり方に関する提案

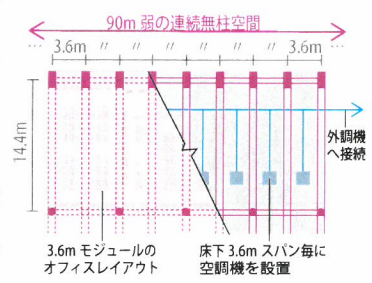
時代の変化を許容するリダンダントな庁舎

これからの時代に合った新しい執務空間の在り方

- 全ての部署をワンフロアに集約し、執務室の機能を業務形態に分類し再構成します。
- 各部署の打合せスペース等をまとめ、コモンエリアとして適切に配置し、様々な働き方に合った新しい執務環境をつくります。

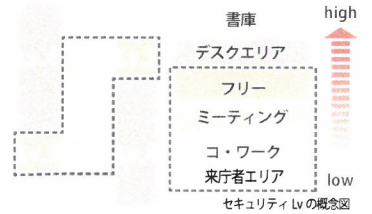
組織改編に柔軟に対応する執務空間

- デスクエリアは、空調制御単位にも対応した3.6m×14.4mモジュール、90m弱の連続無柱空間とします。
- ユニバーサルプランニングを基本とし、人員構成の変化、将来の組織改編、業務拡張にも柔軟に対応できます。
- 必要に応じて梁下で間仕切りや小部屋対応も可能



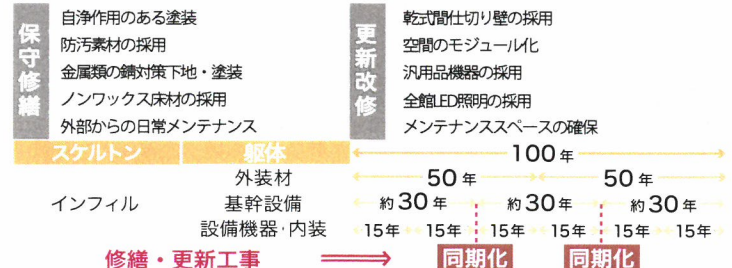
段階的なセキュリティ設定が可能な構成

- 階段やEVから、段階的なセキュリティを設定することで、柔軟かつ安全性の高いエリア構成を実現します。
- 執務室の2階集約化により、エントランス部との明快なセキュリティ区分が可能です。



機器更新やメンテナンスがしやすい合同庁舎

- 建物はスケルトンインフィルとし、設備システムをコア回りに集約化します。配管は更新時期を同期化することで、内装に影響を与えない維持管理しやすい計画とします。



感染症対策「3密」回避、「清浄空気」供給、「非接触」推進

- 壁のない低い家具で構成された開放的な空間で密を避けた執務空間とします。
- テラスや吹抜けのバランスのよい配置と、高い換気能力の空調機採用により、自然と機械の両面から有効な空気の流れをつくります。
- 各種機器による非接触認証を取り入れます。

